



みどりっこだより

みどりっこは、お子様が病気やケガなどで保護者の方がご家庭で看病ができない時に、お子様の症状や体調などに合わせて回復に早く向かえるように専任看護師・保育士が保育看護を行い、1日を安心・安全で快適に過ごしていただく医療機関併設型の病児保育室です。

歯の生え変わりについて



どうして子どものうちから永久歯が生えてくることはなく、乳歯と永久歯があるのでしょうか？今回はその理由と仕組み、乳歯のケアの必要性についてお話します。

子どもの歯とおとなの歯があるのはなぜ？

永久歯ができるまでに時間がかかる

硬い永久歯が出来るまでに、5年以上の長い時間が必要となります。まず、小さめでエナメル質や象牙質の厚みが永久歯の半分程と薄く、成長変化に対応してすり減ることが出来る適度な硬さをもった乳歯が生えます。



食物からの栄養摂取が必要

1歳頃になると、母乳やミルクだけでは子どもに必要な栄養が不足してしまいます。食物から栄養摂取をするようになるため、食物を噛み砕くための歯が必要になります。



乳歯は永久歯が出来るまでのサポート役！

歯の生え変わる時期

6歳頃から12歳にかけて「乳歯」から「永久歯」へ生え変わります。親知らずは生えてこない人もいますが、17~21歳と最も遅く生えてきます。

生え変わる仕組み



①乳歯の下で永久歯のもとになる歯胚ができて、時間をかけて成長していく



②乳歯の根を溶かす細胞が現れ、少しずつ溶かされる



③乳歯の根が溶けてグラグラになる



④永久歯が顔を出す

乳歯も大切にケアしていきましょう。

乳歯には、「食べ物を噛む」「あごの発達の手助け」「発音しやすくする」「永久歯が生える時の目印」といった大切な役割があります。

乳歯は永久歯に比べて、エナメル質や象牙質が薄いため弱く、虫歯の進行がとても早いと言われています。この時期に虫歯が原因で歯を抜いてしまうと、永久歯の歯並びが悪くなる可能性があります。いずれ生え変わるからと思わずに、大切にケアしていきましょう。

